



ここにいます
「がん電話情報センター」
あなたの知るを助けます

ancer

(全国一律の電話料金でご利用いただけます。
PHS、一部のIP電話からはご利用いただけません。)

おーこここにしようほう
0570-055224
受付時間：平日 12:00~17:00
(土日・祝祭日・年末年始・夏期休業を除く)

モッタイナイ、は昨今のエコ活動で使われるようになったすばらしい日本語だが、私は別の意味で「もったいない」と言うことが増えた。そのことに自分で気づいた。

この言葉、損得の損だとか得だとかに置き換えられないことは誰でも気づくと思う。私は「もったいない」を、一期一会の機会をおろそかにしなう、という意味で使っているようだ。

たとえば、がん電話情報センターで相談員の対応について、「あそこでああなたが言葉を挟まなければ、もっと深い本音を吐き出してもらえたかも。もったいなかったね」という風に。また自分に向かっては、ああ、また忙しく過ぎてしまったな、2010年の桜もゆっくの眺めなかった…、もったいなかった、という風である。

「伝説のおばさん」のオススメ 12

OK! もったいないこと、 しないから



Akiko Hashimoto

5月に、待望の子どもに恵まれた夫婦を訪ねた。かわいい男の子をだっこさせてもらった。「子育ては期間限定の事だから、楽しくやりたい」と夫婦で揃って微笑んでいるのを見て、心が和んだ。是非、ゆったりゆるやかに過ごしてもらいたい。

ただこの言葉、がんを告知されたばかりの人や、最愛の家族を喪って5年も経たないような人には、少し違う側面からの使い方になる。人生の危機には、得心するまで迷い、考え、叫び、泣く必要があって、そこから無理やり引き出すのは(できっこないが)、それこそもったいない。涙が底をつくまで、一本の細い道を「これが行く道」と定めるまで、泣く時間を惜しんではならない。

娘に「母が最期に(意識が混濁して)、孫だとか若いお医者さんを(15歳で逝った)お兄ちゃん」と間違えても、ちがうよ、と訂正しないでね」と頼んである。娘いわく、「大丈夫。そんなもったいないことしない」。私のせっかくの息子との再会の夢を、壊したりしないと約束してくれたのだ。



NPO法人血液情報広場・つばさ理事長、
がん電話情報センターCTIS相談主任、
日本骨髄バンク(骨髄移植推進財団)常任理事

橋本 明子